

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくハウス 運動伊奈北校
------	----------------

実施年月日 : 2025年12月3日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		活動人数を調整し、スペースに余裕を持たせることで安全で落ち着いた環境づくりを行っている。	利用状況により空間が狭く感じられる場合があり、より柔軟な人数調整や環境設定が求められる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		子どもの特性や人数に応じて職員配置を調整し、安心して活動できる支援体制を整えている。	利用状況によっては職員負担が偏る場合があり、より安定した配置体制の工夫が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		活動内容に応じた空間分けや視覚的表示を行い、子どもが理解しやすい環境づくりに努めている。	個々の特性に応じた環境配慮について、さらなる工夫や設備面の充実が今後の課題である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		日々の清掃と整理整頓を徹底し、活動内容に応じた空間づくりで安心して過ごせる環境を整えている。	利用状況により環境維持にばらつきが出るため、より安定した清潔保持と空間活用の工夫が必要である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		子どもの状態や気持ちに応じて個別スペースを活用し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。	利用状況により個別対応スペースが不足する場合があり、より柔軟な環境設定の工夫が求められる。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的な振り返りや会議を通じて職員全体で意見共有し、業務改善に主体的に取り組んでいる。	参画にばらつきが見られるため、全職員がより積極的に関わる仕組みづくりが課題である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者評価や日々のやり取りを通じて意向を把握し、支援内容や環境改善に積極的に反映している。	意見の共有や反映状況の周知をより充実させ、改善の見える化を進めることが課題である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		会議や日々の情報共有を通じて職員の意見を収集し、業務改善に活かす体制づくりを行っている。	意見の反映状況に差が出ないよう、共有方法や仕組みのさらなる充実が必要である。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		外部の視点を取り入れた評価結果を共有し、客観的な視点から業務改善に努めている。	外部評価の活用機会をさらに増やし、継続的な改善につなげる仕組みづくりが課題である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		法人内研修や外部研修への参加機会を設け、職員の専門性向上と支援力の強化に努めている。	参加機会に偏りが出ないよう、全職員が継続的に学べる体制のさらなる充実が課題である。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインに基づき支援プログラムを作成し、内容の分かりやすい公表に努めている。	保護者により伝わりやすい表現や周知方法の工夫を行い、理解促進を図ることが課題である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		個々の状況を丁寧に把握し、保護者の意向も踏まえた客観的なアセスメントに基づき計画を作成している。	アセスメントの精度向上と情報共有の充実を図り、より質の高い計画作成につなげるのが課題である。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		関係職員で情報共有と意見交換を行い、共通理解のもと子どもの最善の利益を考えた計画作成に努めている。	全職員がより積極的に参画できる体制づくりや、意見反映の充実が今後の課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画内容を職員間で共有し、日々の支援に反映することで一貫性のある支援の実施に努めている。	共有の理解度に差が出ないよう、伝達方法や確認体制のさらなる強化が課題である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		日々の行動観察と記録を活用し、子どもの状況を継続的に把握しながら支援に活かしている。	標準化ツールの活用をさらに進め、より客観的で多面的なアセスメントの充実が課題である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		ガイドラインに基づき多面的な視点で支援内容を整理し、具体的に実践的な計画作成に努めている。	支援内容のさらなる具体化や関係機関連携の強化を図り、より質の高い計画づくりが課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員間で意見交換を行いながら活動プログラムを立案し、子どもの特性に応じた内容づくりに努めている。	参加機会に偏りが出ないよう、全職員が関われる体制づくりと意見共有の充実が課題である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		子どもの興味や成長に応じて内容を見直し、多様な活動を取り入れることで飽きのこない支援を行っている。	活動の幅をさらに広げるため、新たなプログラム開発や外部資源の活用が今後の課題である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		子どもの発達や特性に応じて個別・集団活動を組み合わせ、バランスの取れた支援を行っている。	個々のニーズにより柔軟に対応できるよう、活動内容のさらなる工夫と調整力の向上が課題である。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前の打合せで内容や役割を共有し、職員間の連携を図りながら一貫した支援を行っている。	打合せ内容の理解度に差が出ないように、共有方法や確認体制のさらなる工夫が課題である。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に振り返りの機会を設け、気づきや課題を共有し、次の支援に活かす取組を行っている。	振り返りの時間確保や内容の充実を図り、より効果的な共有体制の強化が課題である。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を丁寧に残し、情報共有と振り返りを通じて支援の質の向上につなげている。	記録内容の統一や活用方法をさらに工夫し、より効果的な検証と改善につなげることが課題である。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、子どもの状況や変化を踏まえて計画の見直しを行っている。	よりの確な見直しにつなげるため、情報共有や評価の精度向上が今後の課題である。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		ガイドラインに基づき複数の基本活動を組み合わせ、子どもの成長を多面的に支える支援を行っている。	活動の組み合わせの質をさらに高め、より個々に適した支援内容の充実が課題である。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選択肢を提示し、自ら選ぶ機会を設けることで、主体性や自己決定力を育む支援を行っている。	子どもの特性に応じた選択方法の工夫をさらに進め、より主体的な関わりを引き出すことが課題である。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		子どもの状況を把握した職員が会議に参加し、関係機関と連携しながら適切な支援につなげている。	より円滑な連携のため、情報共有の強化や参加体制のさらなる充実が今後の課題である。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と情報共有や連携を図り、子どもにとって切れ目のない支援体制づくりに努めている。	連携の機会をさらに充実させ、より迅速で的確な情報共有体制の強化が課題である。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校と密に情報共有を行い、下校時刻や行事等を踏まえた円滑な連携と安全な支援に努めている。	情報伝達の精度向上を図り、緊急時も含めた迅速で確実な連絡体制の強化が課題である。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の関係機関と情報共有を行い、子どもの成長過程を踏まえた継続的な支援につなげている。	連携機会にばらつきがあるため、より安定した情報共有と相互理解の促進が課題である。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先へ支援内容や成長の記録を共有し、円滑な引継ぎと継続した支援につなげている。	移行支援の機会をさらに充実させ、関係機関との連携強化を図ることが課題である。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターと連携し、助言や研修を受けながら支援の質向上に努めている。	連携機会の拡充と継続的な活用を図り、より実践的な学びにつなげることが課題である。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域資源の活用や外出活動を通じて、他児との関わりを持てる機会づくりに努めている。	交流機会に限りがあるため、安全面に配慮しつつ地域交流の機会拡充が課題である。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		関係会議への参加を通じて地域との連携を深め、支援の質向上と情報共有に努めている。	参加機会の拡充や情報の還元を強化し、より実践的な支援につなげることが課題である。
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の連絡や面談を通じて保護者と情報共有し、子どもの状況や課題の共通理解に努めている。	伝達方法の工夫や共有の質を高め、より分かりやすく双方向の理解を深めることが課題である。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家庭での関わりに役立つ情報提供や助言を行い、保護者の安心と対応力向上を支援している。	研修機会の充実や参加しやすい環境づくりを進め、より実践的な支援の強化が課題である。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や面談時に丁寧な説明を行い、保護者が安心して利用できるよう配慮している。	より分かりやすい資料作成や説明方法の工夫により、理解の向上を図ることが課題である。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や日々のやり取りを通じて意向を丁寧に確認し、子どもの最善の利益を重視した計画作成に努めている。	意向確認の機会をさらに充実させ、より反映しやすい仕組みづくりの強化が課題である。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画内容を丁寧に説明し、保護者の理解と納得を得た上で同意をいただくよう努めている。	より分かりやすい説明方法や資料の工夫を行い、理解の深まりにつなげることが課題である。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日常的な相談対応や面談を通じて保護者の悩みに寄り添い、適切な助言と支援に努めている。	相談しやすい環境づくりをさらに進め、よりきめ細かな対応体制の充実が課題である。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	保護者同士の交流や情報共有の機会づくりに配慮し、安心してつながれる環境づくりに努めている。	交流機会の充実や参加しやすい工夫を進め、より活発なつながりを促進することが課題である。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整備し、迅速かつ丁寧な対応を行うことで安心して利用できる環境づくりに努めている。	周知方法の工夫や対応内容の共有を充実させ、より信頼性の高い体制づくりが課題である。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		通信や各種媒体を活用し、活動内容や予定を分かりやすく発信し、安心につながる情報提供を行っている。	発信頻度や内容の充実を図り、よりタイムリーで伝わりやすい情報提供の強化が課題である。
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理方法を徹底し、職員間で取り扱いのルールを共有しながら適切な管理に努めている。	継続的な研修や確認体制の強化により、さらなる意識向上と管理の徹底が課題である。
	44 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援や分かりやすい説明を工夫し、子どもや保護者との円滑な意思疎通に努めている。	個々の特性に応じた伝達方法のさらなる工夫と、支援の質向上が今後の課題である。
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域とのつながりを意識し、外出活動や地域資源の活用を通じて交流の機会づくりに努めている。	地域住民との交流機会の拡充や行事への参加促進など、開かれた運営の強化が課題である。
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを整備し、職員への周知と訓練を通じて安全で安心な支援体制の構築に努めている。	訓練内容の充実や保護者への周知を強化し、より実効性の高い体制づくりが課題である。
	47 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、定期的な避難訓練等を実施することで非常時に備えた安全対策を行っている。	訓練内容の多様化や実践性の向上を図り、より実効性の高い体制づくりが課題である。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		事前に健康状態や服薬状況を確認し、個々に応じた安全で適切な支援の提供に努めている。	情報更新の徹底や共有体制の強化を図り、より確実な対応につなげることが課題である。
	49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書に基づき個別対応を徹底し、職員間で情報共有しながら安全な支援に努めている。	確認体制のさらなる強化や緊急時対応の周知徹底を図り、より安心な体制づくりが課題である。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修や訓練を実施し、職員の意識向上と安全管理の徹底に努めている。	訓練内容の充実や継続的な見直しを行い、より実効性の高い安全管理体制の強化が課題である。
	51 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の内容を保護者へ丁寧に伝え、家庭と連携した安全確保の取組に努めている。	周知方法の工夫や理解度の確認を行い、より確実な共有体制の強化が課題である。
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を職員間で共有し、原因分析と再発防止策の検討を行い安全対策に活かしている。	共有の徹底や活用の精度向上を図り、より実効性の高い再発防止体制の強化が課題である。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修を実施し、職員の理解と意識向上を図りながら適切な支援に努めている。	継続的な研修の充実と実践への反映を強化し、より高い意識づくりが課題である。
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する基準を明確化し、事前説明と同意を徹底した上で適切な対応に努めている。	職員間の共通理解をさらに深め、より適切で慎重な判断体制の強化が課題である。	